

長崎県地方史だより

第71号

題字 小曾根 星 堂 先生

天正遣欧少年使節・中浦ジュリアン 出生の地から見た歴史

岸本 徹也



長崎で開催された
列福式

徳川時代に殉教
した「ペトロ岐部
と一八七殉教者」

を福者とする日本国内で初めての列福式が、二〇〇八年十一月二十四日、長崎市の県営野球場において、およそ三万人を集め盛大に開催された。聖人に継ぐ崇敬の対象である福者となつた一八八人の内、四十四人が長崎県内での殉教者であり、その中には特に名の知られた二人の司祭がいた。一人は、トマス金鐔次兵衛、そして、もう一人は、天正遣欧少年使節の一人、中浦ジュリアンである。

天正遣欧少年使節とは

九州のキリシタン大名三氏、大友宗麟・有馬晴信・大村純忠の名代としてローマ教皇に謁見するため送られた四人の少年使節、伊東マンシヨ・千々石ミゲル・原マルチノ・中浦ジュリアンのことで、日本人としては初めて西洋に派遣された公式の外交使節である。四人の少年の出会いは一五八〇年頃の有馬（現在の南島原市北有馬町）のセミナーヨ（神学校）

に始まる。一五八二年（天正十）二月、長崎を出港、マカオ、ゴア、アフリカ南端の喜望岬を回り、ポルトガルに上陸。スペイン国王フィリップ二世、ローマ教皇グレゴリオ十三世に謁見した。ローマ議会では名誉ある市民権を賜る。遠いアジアの国から来た少年たちは行く先々で大歓迎を受けた。一五九〇年七月、長崎港に帰港。翌年、京都聚楽第において巡察師ヴァリニャーノと共に豊臣秀吉に謁見した。

使節たちの長い旅行の成果として、ヨーロッパから日本に活版印刷技術、西洋楽器などの文化を持ち帰ったこと、またヨーロッパに初めて日本人と日本文化を紹介し、当時の西洋社会に大きな衝撃をもたらしたことが挙げられる。

十六世紀中、ヨーロッパでは天正遣欧少年使節に関する九十種類を超える旅行記が出版されていて、これほど有名になった日本人はめずらしい。しかし、歴史上きわめて稀な意義ある事業を為したにもかかわらず、その事実は鎖国により歴史の舞台から消され、忘れ去られてしまった。中浦ジュリアン（一五六八年頃）

目次

- ・天正遣欧少年使節・中浦ジュリアン
出生の地から見た歴史 岸本 徹也 1
- ・松浦静山と蘭学 木田 昌宏 3
- ・平戸の海外貿易時代に関する代表的な史跡紹介 久家 孝史 5
- ・各史談会の年間活動報告 8
- ・事務局より 12